

令和6年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 高知県の事例（2018年度～）

<現状及び課題>

- 高校中退者数…265人、中途退学率…1.6%（全国平均1.5%）全国と比較し中途退学率は32位。
- 非正規雇用が多く、高知県の15歳以上人口の就業状態「無業者数」は258,300人（全国44番目）【令和4年度】
- 高知県の若者サポートステーション事業の累積登録者数4,396人のうち、46.6%の2,051人が高校未卒者。（H19～R7.2累積）
- 交通が不便で移動に時間を要することから、地域によっては十分な支援に至らないという課題がある。

<取組内容及び実施方法>

【実施体制の整備】

- 業務運営委員会（「学習相談・学習支援」検討会）の開催により、県教育委員会が事業実施を委託する若者サポートステーションと、ハローワーク及びその他支援団体等が連携する実施体制を整備。

【学習相談・学習支援の実施】

- サテライトを含む県内5カ所にある若者サポートステーションにて、利用者の希望や特性に応じた個別及び少人数での学習相談・学習支援を行い、高卒認定試験合格後においても継続的な支援を実施。※対象：高等学校未卒の20歳から39歳及び市在住の15歳から19歳の高等学校未卒の社会的自立に困難を抱える若者（高等学校卒業程度認定未取得）
- 福祉部局等・教育委員会事務局関係課と情報連携を図る「学習相談・学習支援」検討会を開催。

【広報の取組】

- 「地区別連絡会・高等学校担当者会」（県内6会場）の開催、市町村教育委員会への中学校卒業時進路未定者の進路・支援状況調査及び市町村役場・ハローワーク等での出張相談会の実施等により、若者サポートステーションへの誘導を実施。
- 「若者はばたけネット」により、中学卒業時及び高校中退時の進路未定者の情報を県教育委員会が学校より収集し、その情報提供を受けた若者サポートステーションより支援対象者にアプローチを行う。
- 在学生を対象とした高等学校での個別相談・出張セミナーにおいて若者サポートステーションの周知を行う

<取組の成果>

- のべ1,600名以上が事業を利用。実利用者（136名）のうち122名が高等学校卒業程度認定試験の受験や高等学校（入学・再入学・編入学）の受験、就職活動を実施。高卒認定試験については22名が受験し、18名が合格※科目合格を含む。

<今後の取組>

- 地理的、経済的な理由で定期的な来所が困難な利用者のためのオンライン対応やアウトリーチ型支援等を行いながら、修学支援のより一層の実施を目指す。
- 高卒認定試験合格の有用性の周知、学習支援への参加頻度の向上（参加者の状況に応じた働きかけと学習習慣の獲得支援）を図ることで、高卒認定試験受験者数及び合格率の向上を目指す。

	R4	R5	R6
学習相談	117	120	118
学習支援	33	41	49
就労	35	41	39
修学	17	18	22
アウトリーチ	50	50	41



令和6年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 高知県の事例 (2018年度～)

＜実施体制のイメージ図＞

